日光街道400年の「むかし」と「いま」を同時に歩こう

徳川家康が日光
東照宮に改葬された元和3
(1617)年に街道・宿場がともに整備さ
れたという日光街道。この日光街道は宇都宮
までは奥州街道とも重なり、参勤交代をする奥
州各藩の大名行列、また一般の旅人も行き来した
道で、宇都宮からは4つの宿場を経て日光に到着し
ます。元禄の昔、芭蕉が奥の細道の旅路の一部
として辿った日光街道のうち、栃木の宿場を
自らの足で歩いて、昔の面影を偲びつつ、
現在の姿もまた見つめ直して
みませんか。

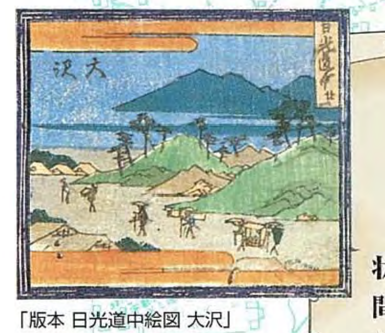
宿場マップについて

日光街道には江戸千住を最初の宿場として日光の鉢石宿まで21の宿場があり、そのうち宇都宮までの17宿は奥州街道と重なっていました。このマップでは、この21宿のうち栃木県内の野木宿から鉢石宿までの12宿を中心に6冊に分けて編集します。これらの宿場の周辺には旅人の宿として繁盛した当時の名残りをとどめる様々な名所・史跡が残っています。また、今に至るまで行われている行事もあります。さらに道中の自然や見どころも広く紹介してあります。このマップを活用して、歩きながら、日光街道の“むかし”と“いま”をお楽しみください。

地図の凡例

🟥	旧日光街道	●	名所・史跡	●	その他のポイント
▭	一般国道	🚻	トイレ	▤	案内看板等
🟩	主要地方道	🌳	公園	ℹ	観光案内所
🟨	一般県道	Ⓟ	駐車場	◎	官公庁
🟦	有料道路	・・・・	並木道		

地図は日光街道沿線の各自治体所有の1万分の1白図を使用し、近世の日光街道を赤色（道は赤の実線。ただし通行不能区間及び比定があいまいな箇所は破線）で表しました。



「版本 日光道中絵図 大沢」
（栃木県立博物館蔵）

源頼朝にちなむ恩沢の地

大沢宿

大沢は、大谷川・赤堀川・田川などがつくる今市扇状地の扇端部に位置しています。この地は、建久年間（1190～99）に源頼朝が狩りに訪れたとき、広大な荒れ地だったのを見て、4人の従者（宮下・大島・安西・高橋）に開拓居住させたのが始まりといわれています。地名は、この頼朝のご恩沢にちなみ「恩沢」と称され、のちにそれが大沢（おおたく）となり、さらに現在の読みになったと伝えられます。

大沢宿は、元和3（1617）年に日光東照宮が造営された後、江戸から19番目の宿場となりました。今市宿、徳次郎宿へそれぞれ2里（約8km）のところにあって、天保4（1833）年に飯盛女を置くことが許可され、翌年に茶屋・旅籠の往来人引き止めを目的とする取り決めができると、宿場内は非常に賑わったといいます。

森友並木太郎
1 大沢の一里塚
2 大沢御殿跡
今市市
大室入口
6 竜蔵寺
5 八坂の枝喰い杉
7 王子神社（大銀杏）
3 大沢の四本杉
4 大沢の古杉
今市市役所◎
大沢支所
8 杉並木寄進碑
御殿工場入口
宇都宮駅
10 新渡神社
9 上小池の一里塚
11 うらない仏
宇都宮市
国道119号
至 子どものもり公園
石那田八坂神社
日光宇都宮道路
大沢I.C
1:10,000

知ってなるほど！「水無」の由来

今市宿から森友の杉並木を過ぎると、旧水無村に入ります。「水無」の地名の由来には諸説があり、一つは、かつてこの辺りの水利が悪く畑地ばかりであったという説。もう一つは、名主清兵衛の宅地に大きな梨の木があり、水分の多い甘い実をつけたので「水梨」と呼ばれ、それが「水無」になったという説があります。

知ってなるほど！御殿工場って？

大沢御殿跡の近くには「御殿工場入口」というバス停があります。この名は、江戸幕府が滅んだ明治元（1868）年、安西氏がこの地を請い求め家業の材木業を営んだことから呼ばれるようになったようです。また、この辺りから北へ延びる県道大桑・大沢線は、老中水野忠邦が通行する際に整備されたことから「御老中街道」としても知られています。

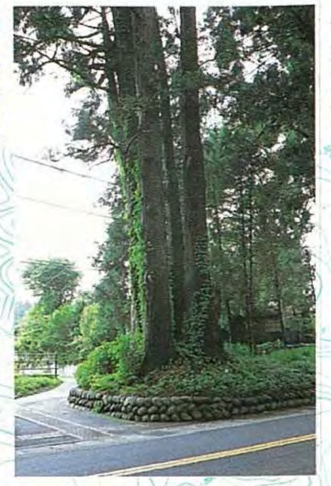
① 大沢の一里塚

江戸から32里目の一里塚で、ここの地名をとって「水無の一里塚」とも呼ばれます。現在、西側の塚には木がなく、東側の塚に2本の杉が生えています。

② 大沢御殿跡

大沢御殿とは、寛永4（1627）年、徳川3代将軍・家光の日光社参にあたり、幕府が将軍休息所・装束衣帯所として設けたものです。

③ 大沢の四本杉



4本の杉が四角形の各点から、ほとんど同じ大きさで立ち、均整のとれた箱型の樹相をなしています。これは、互いに倒木を防ぐための植樹法によるものといわれています。

④ 大沢の古杉

この数本の古い杉は、松平正綱が東照宮に並木杉を植栽寄進する前から存在したことを窺わせます。また、ここは戊辰戦争の時、大沢の斎藤縫蔵と板橋の由五郎が幕府軍の間諜を働いたとして処刑されたところでもあります。

⑤ 八坂の枝喰い杉

八坂神社の鳥居前、2本の杉の根部が癒着した二又杉です。一方の幹から分岐した杉が、接触していた他の幹の成長とともに癒着したもので、あたかも別の木の枝を食い込んでいるような形をしています。

⑥ 竜蔵寺（六尺藤）

寛文3(1663)年、徳川4代将軍・家綱の日光社参の時に大沢御殿に代わり装束衣帯所となりました。以後、吉宗(8代)、家治(10代)、家慶(12代)も利用しました。境内には、市指定天然記念物の六尺藤があります。

⑦ 王子神社（大銀杏）

主神豊城入彦命に以仁王と源頼朝をまつる神社です。境内には、推定樹齢約200年といわれる大銀杏があり、市指定の天然記念物になっています。

⑧ 杉並木寄進碑

慶安元（1648）年に建てられた寄進碑はここのほか、日光神橋、例幣使街道小倉、会津西街道大桑にあり、松平正綱が杉を植栽寄進した由緒が刻まれています。また、ここは日光神領と宇都宮領との境界でもありました。

⑨ 上小池の一里塚

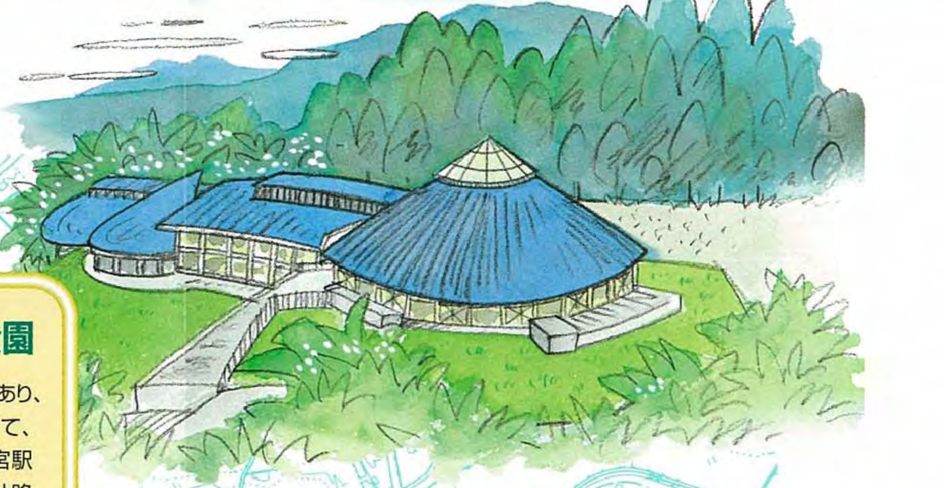
江戸から31里目の一里塚です。西側には直径約3m、高さ約1.8mの塚がありますが、東側の塚は今は痕跡も認められません。江戸時代には、ここに松が植えられていたといわれています。

⑩ 新渡神社

この神社のご神体は石の不動像で、境内には、大杉・稲荷の2社があります。近くに一里塚があることから、江戸時代の旅人はこの境内でも疲れをいやしたのでしょう。

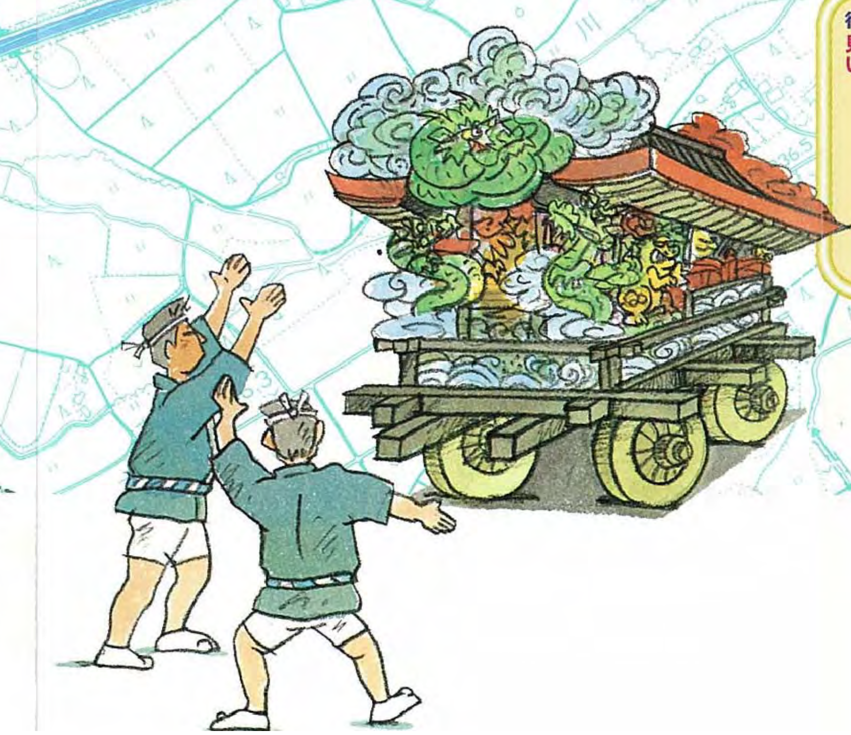
⑪ うらない仏

大谷石でできた石仏のため風化が激しく、はっきり分かりませんが、阿弥陀像と思われます。この石仏に願をかけ、3個のまんじゅう形の石のいずれかを持ち上げて、軽く感じれば願いが叶うといわれています。



行ってみよう！見どころいろいろ 平成記念子どものもり公園

約22haある公園内には、吊り橋やトンネルがあり、ロッジやテントに宿泊したり野外炊飯をしたりして、家族でも、友達同士でも楽しめます。JR宇都宮駅より関東バス「塩野室行き」「塩野室・船生行き」路線バス約40分、「篠井学道」下車、徒歩約10分。



行ってみよう！見どころいろいろ 石那田八坂神社の天王祭

7月24日の天王祭の時に出される6台の屋台（不定期）は、いずれも幕末から明治初期につくられたもので、見事な彫刻が施されています。この「石那田八坂神社天王祭付祭屋台」は市指定民俗文化財になっています。